

もうひとつの日本美術史

棟方志功（菩薩歌連十大弟子）より「優婆離の柵」一九三九年一般財団法人棟方志功記念館



棟

志功

二〇二〇年七月十一日（土）—八月三十日（日）

〔休館日〕月曜日（ただし八月十日（月・祝）は開館）、八月十二日（火）

〔開館時間〕九時半—十七時（入館は十六時半まで）

〔観覧料〕一般・大学生二〇〇〇（八〇〇）円、高校生五〇〇（四〇〇）円、小・中学生三〇〇（二〇〇）円

※（ ）内は二〇名以上の団体料金※身体障がい者手帳、療育手帳、精神障がい者保健福祉手帳をお持ちの方は無料（身障、療育手帳については第一種、保健福祉手帳は一級の場合、付添いの方一名も無料）

〔主催〕福島県立美術館、読売新聞社、美術館連絡協議会、福島民友新聞社、福島中央テレビ 「協賛」ライオン、大日本印刷、損保ジャパン

近現代版画の名作2020

福島県立美術館

〒960-8003 福島市森合字西養山1 tel. 024-531-5511 <https://art-museum.fcs.ed.jp>



1970年に日本で5番目の近代美術館として設置された和歌山県立近代美術館は、日本有数の充実した近現代版画のコレクションで知られています。また、福島県立美術館は、1984年の開館にあたり、戦後を代表する版画家・斎藤清からその主要作品の寄贈を受け、美術館活動が始まりました。本展覧会はこの2館のコレクションを中心に、これまで日本の美術の歴史を語るうえであまり光が当てられることのなかった版画を文脈として、地方から見えるもうひとつの近現代日本美術史を編み直そうとする試みです。地方の美術館が研究・収集活動を続けてきた、明治から平成にかけての版画の名作約300点により、日本の近現代を振り返ります。

(期間中、展示替えがあります。詳しくは美術館ホームページでご確認ください。)



①



②

©Hisako Watanabe



③



④



⑤



⑥



⑦



⑧



⑨

- ①山本鼎(プルトンヌ)1920年/千葉市美術館
- ②斎藤清(凝視(花))1950年/福島県立美術館
- ③橋口五葉(髪梳ける女)1920年*
- ④竹久夢二(港屋絵草紙店)1914年/千葉市美術館
- ⑤『マヴォ』3号(表紙デザイン:村山知義)1924年/個人蔵
- ⑥谷中安規(ムツレル・ショウス)1933年*
- ⑦浜口陽三(パリの屋根)1956年*
- ⑧田中恭吉(五月の呪)(私輯『月映』IV)1914年*
- ⑨今純三(風景)1936年/青森県立郷土館
- ⑩横尾忠則(『第6回東京国際版画ビエンナーレ展』ポスター)1968年* (*和歌山県立近代美術館所蔵)

講演会

「日本『近現代』美術を『版画』表現で再考する」

7/23(木・祝)14:00~15:30

講師:山野英嗣氏(和歌山県立近代美術館館長)

会場:美術館講堂(聴講無料)

ギャラリートーク

7/18(土)、8/8(土)、14:00~15:00

講師:当館学芸員

会場:企画展示室(観覧券購入のうえ、展示室入口にお集まりください)

関連事業は都合により変更となる場合があります。詳しくは美術館ホームページでご確認ください。

改修工事にもなう休館のお知らせ
改修工事のため、下記の期間を全館休館いたします。ご迷惑をおかけしますが、ご理解くださいますようお願い申し上げます。期間:2020年8月31日(月)~2021年春頃【予定】

交通のご案内

【電車】JR福島駅東口より福島交通飯坂線→「美術館図書館前駅」下車、徒歩2分

【バス】JR福島駅東口より福島交通バス9番のりばから市内循環ももりん2コース→「県立美術館入口」下車、徒歩3分

【タクシー】JR福島駅東口、西口より約5分

【車】東北自動車道福島飯坂ICより約15分、福島西ICより約20分



⑪

©TADANORI YOKOO

